



「聖なる者となりなさい。
私が聖なる者だからである。」
I ペトロ 1:16

URL <http://www.jhc.or.jp>



1-30-1, Megurita-cho Higashimurayama-shi Tokyo, 189-8512 JAPAN

〒189-8512 東京都東村山市廻田町 1-30-1 Tel 042(394)7466 Fax 042(392)2877 E-mail jhc-honbu@jhc.or.jp

2020年7月30日

全国の牧師先生方、役員の皆さまへ

日本ホーリネス教団
委員長 島津 吉成
総務局長 佐藤 信人

【第13報】新型コロナウイルス感染症への対応に関して

主の聖なる御名をたたえます。

報道にありますように、東京都を始め大都市圏を中心に新型コロナウイルスの新規感染者数が過去最多を更新している都道府県が多く出ています。第12報でもお伝えしましたように、政府や行政による緊急事態宣言などの発令が出にくい現在の状況を考えますと、各教会における対応につきましては、置かれた地域における感染状況や教会内の状況を十分に考慮しつつ、自分たちで判断していくことがどうしても必要となっています。

そのような中、日本福音同盟（JEA）に所属する教団において、集団感染（クラスター）が発生されたとの報道がありましたので、注意喚起のためにも皆さんにその情報をお知らせするとともに、改めて各教会において注意していただくべき点をお伝えし、もしも同じような状況が発生した場合にどのように対処していただくべきかをお知らせいたします。

1. 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団で発生したクラスター（集団感染）について

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団に所属する教会におきまして、7月12日（日）に集団感染（クラスター）が発生しました。同教団のホームページには、理事会名でその事実が下記のように発表されております。

5月末の緊急事態宣言解除後、With コロナによる新しい生活様式が始まりました。7月現在、東京や大阪をはじめとして全国各地で感染者が増加し、拡大傾向が続いています。

●感染の発生

当教団・関東北東教区に属する教会のランチ集会で7月12日（日）の集会後に、集団感染（クラスター）が発生しました。

集会参加者20名（児童含）のうち15名が感染。感染した15名は現在入院しており、いずれも軽症と報告されています。

●感染経路

現時点の推測される感染経路ですが、7月12日以前、通勤送迎用車両に乗っていた6名が感染した報告がなされており、その感染者の家族である教会員によってウイルスが集会に運ばれ、拡散したと考えられています。



「聖なる者となりなさい。
私が聖なる者だからである。」
I ペトロ 1:16

URL <http://www.jhc.or.jp>

1-30-1, Megurita-cho Higashimurayama-shi Tokyo, 189-8512 JAPAN

〒189-8512 東京都東村山市廻田町 1-30-1 Tel 042(394)7466 Fax 042(392)2877 E-mail jhc-honbu@jhc.or.jp



集会ではある程度の感染対策はされていたようですが、「換気が十分にされていなかった」という保健所の指摘を受けています。集会所は保健所によって消毒され、2週間の使用中止となっています。

●今後の対応

- (1)感染した集会のメンバーの癒しと快復のためにお祈りください。
- (2)教団の感染対策ガイドラインを更新し、感染拡大を防ぐため教団所属教会に感染対策への一層の注意喚起を促します。

この集団感染は、地元の新聞やキリスト新聞でも報じられています。そして、これはほどこの教団や教会でも起こりうることであらうと思われます。そこで、各教会における感染防止策をもう一度見直し、感染防止に努めていただきたくお願いいたします。

2. 感染防止策の確認・徹底を

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会（旧「専門家会議」）の第2回（7/16開催）資料には「イベント開催に係る感染防止策等の検討」という資料が公開されていますので、そこに記されていることを参考にしつつ、下記の点を改めてご確認いただきたいと思えます。

(1) ウィルスを持ち込まない

①礼拝出席者の体調管理

- ・教会がクラスター発生場所にならないためにまず必要なことは、皆さんが集まる場所に「ウィルスを持ち込まない」ということです。ご存知のように、感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）と言われています。そのため、潜伏期間にある人が教会に集うことも起こりえます。
- ・そこで、発熱をはじめ、少しでも体調が悪い方の礼拝出席は控えていただくことを徹底するようにしてください。ある教会では、来会者に対して受付にてチェックリストを用いて体調を確認した上で礼拝堂に入らせていただくようにしています。

参考資料として、仙台教会で実際に使用している「来会時チェックリスト」と「ステージ分類」を添付いたします。それぞれの実情に合わせて応用していただければと思います。なお、宮城県では現在「ステージ2」の対応となっています。

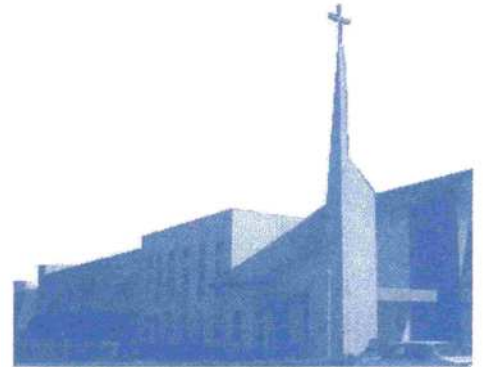
②牧師を始めとする奉仕者の体調管理

- ・見落としがちなのが、牧師を始めとする奉仕者の体調確認です。これまでは、たとえ少々熱があっても、ときには大きな手術の後でも、決して礼拝奉仕を休まないという姿勢が牧師の鑑であるようにみなされてきました。
- ・しかし、新型コロナウイルス感染症が広がっている現在においては、発熱などの体調不良がみられた場合は、思い切って奉仕を休む、礼拝を休止するという勇気ある決断を下すようお願いいたします。単なる体調不良で終われば一週だけで済みますが、万が一新型コロナウイルスに感染していた場合には、長期間の教会閉鎖になることも予想されます。



「聖なる者となりなさい。
私が聖なる者だからである。」
I ペトロ 1:16

URL <http://www.jhc.or.jp>



1-30-1, Megurita-cho Higashimurayama-shi Tokyo, 189-8512 JAPAN

〒189-8512 東京都東村山市廻田町 1-30-1 Tel 042(394)7466 Fax 042(392)2877 E-mail jhc-honbu@jhc.or.jp

牧師がクラスターの感染源となることがないように、奉仕する側の体調管理をもご留意くださるようお願いいたします。

(2) 持ち込んでも感染させない

上記のように、潜伏期間にある場合や、無症状の感染者である場合、自分が感染していることに気づかずに礼拝に集うことも十分考えられます。そのためにも、ウィルスを「持ち込んでも感染させない」ための対策が必要です。いわゆる「三密を避ける」ということが基本となりますが、改めて下記の点をご確認ください。

①マスク

・出席者にはマスクの着用を徹底するようにしてください。司会者や説教者も（会衆席との距離にもよりますが）マスク着用が望ましいでしょう。

②大声抑制

・距離を保っていても、賛美などの音量が大きくなるとリスクが高まりますので、賛美や交読文などのときに音量を抑えるようにしてください。

③手指消毒

・ほとんどの教会では、玄関に消毒液等を置いていると思いますが、来会時、あるいはトイレ使用の後など、手洗いや手指消毒を必ず行うようにしてください。

④教会内の消毒

・接触感染を防止するために、集会前後に、人が手を触れることの多い場所の消毒が必要です。ドアノブ、椅子の背もたれ、便座、トイレの流しレバー、手すり、電気スイッチなどを消毒用アルコールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液などで清拭消毒してください。

⑤密閉の回避（換気）

・人が多く集まる場所では、換気が特に重要なポイントとなります。前述のクラスターが発生した教会でも、保健所からは「換気が十分にされていなかった」との指摘があったということです。礼拝前、礼拝中、礼拝後と、こまめに換気するようにしてください。

⑥密集・密接の回避

・着席時、お互いの距離を2メートル程度あけるために、座席数を減らすとともに、座席位置が前の人と重なったり、真正面で対面したりすることがないようにしてください。また、玄関や受付など、一箇所に人が固まるように注意が必要です。
・説教のとき、説教者が長時間話し続けることとなります。このため、説教壇と会衆席との距離は特に注意が必要です。説教者がマスクを着用しない場合、アクリル版を設置した上で5メートル以上空ける必要があります。会堂の広さなどから、5メートルの距離を取れない場合は、マスク着用のまま説教するようにしてください。



「聖なる者となりなさい。
私が聖なる者だからである。」
I ペトロ 1:16

URL <http://www.jhc.or.jp>



1-30-1, Megurita-cho Higashimurayama-shi Tokyo, 189-8512 JAPAN

〒189-8512 東京都東村山市廻田町 1-30-1 Tel 042(394)7466 Fax 042(392)2877 E-mail jhc-honbu@jhc.or.jp

⑦ 飲食の制限

- ・熱中症予防のために各自が飲み物を用意するようにして、教会で飲食を提供すること、会食を行うことは控えてください。

3. その他

(1) 牧師が感染した場合、教会で集団感染（クラスター）が発生した場合の対応

- ・感染防止に細心の注意を払いながらも、現在の感染拡大状況においては、どこの教会でも感染者が発生する可能性があります。牧師が感染するケースも出てくるでしょうし、場合によっては、教会において集団感染（クラスター）が発生することも考えられます。
- ・そのような場合、保健所による対応となりますが、感染の事実を隠すことなく、速やかにご連絡くださるようお願いいたします。二次感染者を最小限にとどめるためにも、正確な情報開示が必要となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 礼拝方法の変更（休止等）の判断について

- ・感染者の急増に伴い、再開して間もない礼拝をどうすべきか、どこの教会でも判断に迷っておられることと思います。繰り返しお伝えしておりますように、それぞれの地域の感染状況や教会の状況が異なりますので、各教会で状況を見極めた上で、独自に判断していただく必要があります。
- ・自分たちの置かれた地域の感染状況を見極めるときの一つの指標は、直近1週間の人口10万人あたりの感染者数です。この数値が2.5人以上の場合、「流行期」と判断されます。医療機関では、このような数字を元に、自分の地域が流行期（＝感染リスクが高い状態）かどうかを判断しています。NHKのウェブサイトでも、全国の都道府県の感染状況が随時公表されていますので参考にしてください。

(<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/>)

新型コロナウイルスの感染者数が急増する中で、私たちのそれぞれの教会が正しい判断をすることができるように、主が助けを与えてくださいますように。また、医療従事者をはじめとして、このために懸命に働き続けておられる多くの方々の働きが支えられますように。

皆さまの教会の上に、主の守りと祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

「聖なる父よ、私に与えてくださった御名によって彼らを守ってください。」

(ヨハネ 17章 11節)

主にありて